

第31回議会報告会 市民参加型フォーラム



令和2年2月1日(土)

午後1時半から午後4時 知立市中央公民館

今回は61名が参加し「市民と議会がつながるには」をテーマに掲げ、知立市議会が抱える課題について、新しい取り組みとして龍谷大学より土山希美枝教授を迎え、「課題共有型円卓会議」を行いました。

【ファシリテーター】

龍谷大学 土山 希美枝 教授

【パネリスト】

可児市議会議員 川上 文浩 議員
新城市議会議員 竹下 修平 議員
知立市スポーツ協会会長 下阪 将三 氏
ちりゅっ子かふえ事務局 栗田 純子 氏
令和2年成人式実行委員長 木下 晃太郎 氏

知立市議会が抱える課題

市民に議会を知ってもらい身近な議会を目指すためには

市議会パネリスト意見

【可児市議会の取り組み】

市民との交流、各種団体・子育て世代との意見交換、市民アンケート、若い世代との交流などを行っている。

【新城市議会の取り組み】

会派制度はなく、委員会が中心で、議会運営をしている。身近で市民が関心のあるテーマを取りあげ座談会等を実施。委員会が出向く事が重要。

市民パネリスト意見

議会に好感・期待感も持てず、興味が無い。その理由の一つとして、主婦層は日々の家庭や仕事・学校行事や地域の付き合いがあり時間がない。また、若い人に議会を知ってもらうには市外に出ていく年代になる前に、学校に議員が出向き政治を知る機会をつくり、生徒たちが学ぶ必要があると思う。

グループ討議での意見

- ・市民と議員が接点を持つことが重要
- ・議会の仕組みや活動を伝える
- ・議員の動く姿を見せる機会を増やす
- ・政策という成果



ファシリテーターのまとめ

市民が新しい公共を共につくっていくのは、行政ではなく市民の代表である議会である。議員が気が付かない意見を、市民が遠慮なく声に出してもらえよう取り組みが必要である。そのためには、一方的ではなく、双方でコミュニケーションが取れる方法を模索しなければならない。その方法の一つとして議員は市民活動に参加し、市民との接点を積極的に持つなどの機会を増やすことが重要。何を課題として地域に投げかけるのかを明確にし、地域や個人からの課題をどのように議会として取り組んで行くかが重要である。

